

研究 主題	外国語科におけるやり取りを継続・発展させ、自分の考えを広げ深められる生徒の育成 －即興への橋渡しとなる学習過程、学習形態、学習支援の工夫を通して－
----------	--

## 第2学年外国語科学習指導案

指導月日 令和7年10月17日  
所属校名 登米市立中田中学校  
氏名 堀内 雄太郎

### 1 単元名 「Unit5 What design is good for everyone?」

（東京書籍 NEW HORIZON English Course 2）

### 2 単元の目標

多様な人々と共に生きる社会の一員としての自覚を深められるように、誰もが暮らしやすい社会について考え、その方法などについての自分の意見や提案を英語で表現し、簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。  
「話すこと [やり取り]」

### 3 単元観

本単元は、中学校学習指導要領解説外国語編第2節英語1目標（3）話すこと [やり取り] の事項のうち、ウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする」に基づいている。

題材には、ユニバーサルデザイン（以下、UD）について、登場人物のアナがイベントに参加したり、調べたことを発表したりする場面が設定されている。UDは全ての人にとって利用しやすい環境を構想するという考えであり、UDの学習を通して「誰のために、どのような工夫が必要か」という社会的課題について、英語で論理的に考えながら学習を進めることができる単元となっている。

言語材料としては、〈主語＋動詞＋（人）＋疑問詞＋to＋動詞の原形〉や〈主語＋be 動詞＋形容詞＋that〉が扱われている。これらを習得することで、これまで以上に自分の考えを具体的に表現できるようになることが期待できる。

誰もが暮らしやすい社会の実現のために、相手意識を持ちながら、どのようなUDが必要かについて伝えたり、相手からの質問に答えたりする言語活動を行うことで、調べたことや自分の考えを互いに共有しながら、自分の考えを広げ深めるためのやり取りが実践できる単元である。

### 4 生徒の実態 [第2学年 37名]

本学級の生徒は、英語の授業において誰とでもペアを組み、前向きに活動に取り組むことができるが、やり取りが一問一答形式にとどまり、対話が継続しない場面が多く見られる。以下は5月と9月に行った意識調査の結果である。

＜回答者5月：33人、9月：31人＞

調査(1) やり取りをするときに、今自分ができていることを教えてください。(複数回答可)			
項目	人数* (5月)	人数* (9月)	できていると感じる主な理由の変化 下線部…研究と関連していると考えられる部分
① 正確に話そうとしている。	24人	19人	5月：ノートを見直して大事な言葉を使っている。 9月： <u>授業で学んだ表現をうまく活用</u> している。
② 相手のことを考えて話している。	20人	13人	5月：リアクションを大きくするようにしている。 9月：相手に <u>質問</u> することを心掛けている。
③ 習ったことを活用している。	19人	18人	5月：これまでの復習にもなる。 9月： <u>習ったことを活用</u> すると相手にうまく伝わる。

調査(1) やり取りをするときに、今自分ができていることを教えてください。（複数回答可）			
④自分のことを伝えようとする。	16人	21人	5月：話したことを理解してもらいたい。 9月： <u>何となくでも伝わるように話している。</u>
⑤会話を続けようとしている。	14人	18人	5月：何かしらの反応はするようにしている。 9月：無言にならないように、 <u>感想などを伝えている。</u>
⑥間違いを恐れずに話している。	7人	6人	5月：間違えた方が、その表現をよく覚えられる。 9月： <u>失敗してもいいから、今まで学んだ単語や文章を使っている。</u>

\*：肯定的な回答をした人数

調査(2) やり取りをするときに、どのようなことに気を付けていますか。（記述式）	
項目	5月と9月の主な回答内容 下線部…研究と関連していると考えられる部分
①正確性に関する記述	5月：完璧にモデル文を発音できるまで会話をしない。単語の読み方や文法を間違わないようにする。 9月： <u>これまで授業で習ったことを活用しようとしている。自分が分かる単語を文章の中に入れる。</u>
②相手意識に関する記述	5月：自分の伝えたいことを伝えるにはどのような表現を使えばよいか。聞いてほしいところを強調する。 9月： <u>簡単な単語で分かりやすく説明する。反応したり、感想を言ったりして、会話を続ける。相手の顔を見て、気持ちを考えながら話す。楽しくやり取りをする。習った言葉や単語を使って話をするようにする。</u>

調査(1)について、やり取りの際に「正確に話そうとしている」（項目①）ことができていると回答した生徒は半数以上おり、9月の調査では、「授業で学んだ表現をうまく活用している」という回答が多くあった。5月から研究の手立てとして実践している既習事項を「型」として段階的に学習する取組等が、生徒の意識へ浸透してきていると考えられる。「間違いを恐れずに話している」（項目⑥）については、肯定的な回答をした生徒は5月と同様に最も低かったが、できていると感じる理由として、「失敗してもいいから、今まで学んだ単語や文章を使っている」といった、学習への前向きさを感じられる回答が多く見られた。その一方で、授業実践Ⅰにおける意識調査時に多かった「自分の英語に自信がない」といった消極的な回答を挙げる生徒は減少した。また、「自分のことを伝えようとする」（項目④）、「会話を続けようとしている」（項目⑤）と回答した生徒は増加しており、授業の中でも、言いたいことを伝えようとしたり、相手の話に質問やリアクションを返したりする姿が見られるようになった。

調査(2)のやり取りをするときに気を付けていることについて、9月の調査では正確性に関する回答数が減り、相手意識を持つよう気を付けている記述が全体の半数以上あり、研究と関連した回答内容が増加した。授業での観察からも、相手に質問をしようと考えていたり、自分の表現が伝わるように言い換えたりするなど、やり取りをつなげる際に大切な視点を意識している生徒の姿が見られるようになった。

## 5 指導観

単元観と生徒観を踏まえて、本単元では主に以下の点に留意する。

生徒の正確に話そうとする気持ちを受け止めつつ、単元の新出表現等を基本の「型」として示しながら、やり取りの中で難しい語句や表現を平易なものに言い換えたり、相手の言葉を繰り返したりして、教師が自然に会話をつなげようとする姿勢を示し続ける。教室内に間違いを恐れずに英語でつなげようという雰囲気醸成し、生徒同士が会話をつなげ、互いの知らなかった一面を知ったり、英語で伝え合うことの楽しさを体感したりしながら、自分の考えを広げ深められる学習過程を展開する。

単元のゴールとして「だれもが暮らしやすい社会の実現のために、どのようなUDが必要かについて考え、伝え合う」というやり取りの言語活動を設定する。ゴール達成に向けて、生徒が自分の考え

や調べたことを、相手と互いに共有できるように働き掛けていく。そのために、教科書の活用させたい表現等に下線を引いたり、空欄にしたりすることで、生徒にそれらの英文の有用性に気付かせる。また、ペアやトリオ活動で、基本の「型」を主としたやり取りから始め、いずれは即興的なやり取りにつながるようステップアップさせていく。

## 6 研究主題との関連

本単元では、身近なUDや未来のUDについての自分の考えを、自信を持って英語で表現し、簡単な語句や文を用いて伝え合うことで、「やり取りを継続・発展させ、自分の考えを広げ深められる生徒の育成」という研究主題に迫る。研究主題の文言は、以下のように捉える。

- ・「広げる」とは、「知識・技能を、実際の英語でのやり取りで活用すること」とする。
- ・「深める」とは、「思考・判断・表現を繰り返しながら、考えを明確にしていくこと」とする。

以上を踏まえ、目指す生徒像を「やり取りを通して、自分の考えを整理し、知識・技能を活用しながら、思考・判断・表現を繰り返して、相手に伝えることができる生徒」とする。

主題達成のための具体的な手立てを以下に示す。その際、生徒観の実態を考慮し、まずは既習事項の確実な定着を図った上で、即興で行うやり取りへの橋渡しにつながる言語活動を設定する。

### (1) 「型」を始めとする段階的な学習過程

単元の新出表現等を「型」として学習することを始めとし、最終的には、自分の考えに置き換えていく活動を段階的に行う。段階途中ではキーワードのみを使ったやり取りを行いつつ、既習の「型」の確実な定着を図る。これまでの単元における既習の「型」も活用しながら、類似のテーマにおける言語活動の場면을繰り返し設定し、生徒が表現できる範囲を徐々に拡大していく。

実際のやり取りの際には、まずは継続性を意識できるように、モデル会話で教師が意図的に単語一語やジェスチャーで伝えてみせたり、つなぎ言葉や質問を入れたりすることで、会話を続けるイメージをつかませる。やり取りを繰り返す中で、目的・場面・状況に合わせて、必要な言語材料を生徒が自ら考え、既習の「型」の中から取捨選択して活用できるようにしていく。また、原稿を暗記したり、ただ読んだりする活動にならないように、手元でキーワードを確認しながら相手の顔を見て話す姿を、教師のモデルで気付かせる。

### (2) トリオ活動を取り入れた学習形態

やり取りをする際の学習形態に、トリオ活動を取り入れることで、個人の発話への心理的負担を軽減し、失敗しても互いにフォローし合える安心感を持たせる。3人の生徒にそれぞれ、「質問する」「答える」「つなげる」という役割を与える。役割を明確にしてトリオ練習に取り組みせ、やり取りへの緊張感や負担感をできるだけ減らし、前向きに楽しく活動できるようにする。3つの役割をローテーションしながら同じテーマで繰り返し活動することで、達成感を得ながら、相手の表現を学びつつ、自らの表現力を高めていく。

場面と実態によっては役割に固執することなく、より自然にやり取りを続けながら、互いの考えを広げ深めていけるように留意する。また、教師がトリオ活動中の言語使用の内容面や言語面について、具体的に全体又は個々にフィードバックして、やり取りの継続・発展へつなげる支援を行う。

### (3) 学びの成長を把握する学習支援

活動をする際に、生徒は自分の学びの足跡を記録する学習シート（以下、Bookmarkシート）を持ち歩き、互いにやり取りの成果を確認し合う。やり取りを継続・発展させることを意識できるように、シートに「相づち」、「質問」、「感想」というチェック項目を入れておく。

相づちや質問、感想に関する既習表現をタブレット端末で共有し、生徒はそこから自由に使いたい表現を選び、使った表現にマークを付ける。「みんなこの表現を使ったのだな」「次はみんながあまり使っていない表現を使おう」など、タブレット端末で他者参照を行っていき、各表現を活用しやすくする。教師は、学級全体と個々の生徒の学びの成長を把握し、次時への課題をつかむ。

授業の最後には、成果や課題に関してBookmarkシートから視覚的に把握し、やり取りで自分の考え

を広げ深めるために必要な学習を自覚させる。また、本時の学習の振り返りをタブレット端末に入力・提出させ、自分が使用した英語について、目的・場面・状況に応じた適切な表現になっているかを確認するように働き掛ける。そして、次時の学習と単元のゴールに向けた目標を再認識できるようにする。教師は単元学習の途中やパフォーマンステスト前に全員の Bookmark シートと振り返りの記録を確認することで、個への指導・支援に役立てる。

## 7 単元の指導と評価の計画

### (1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①【知識】〈疑問詞+to〉を用いた文や〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の文の形・意味・用法を理解している。 ②【技能】〈疑問詞+to〉を用いた文や〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の文の理解を基に、行動の仕方や、確信したこと・嬉しいことなどについて、伝え合う技能を身に付けている。	①誰もが暮らしやすい社会の実現のために、どのようなUDが必要か考えを整理し、その方法などについて簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	①誰もが暮らしやすい社会の実現のために、どのようなUDが必要か考えを整理し、その方法などについて簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

### (2) 単元の全体計画（10 時間扱い 本時 4 / 10） ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価

時	目標 (■) 主な言語活動など (丸数字)	知	思	主	備考
1	[Preview・Part 1] ■UDを取り入れたものの使い方や方法について伝え合うことができる。 ①UDの特徴について共有する。 ②Previewについて話し合う。 ③〈疑問視+to〉を用いた文の構造を理解する。				※記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動状況を確認するために届けて指導に生かすことを毎時間必ず行う。
2	[Part 1] ■UDを取り入れた身近なものについて伝え合うことができる。 ①UDについて知りたいことを伝え合う。 ②身近なUDを取り入れたものについて自分の考えを伝える。				
3	[Part 2] ■UDを取り入れた身近なものについて知るためにはどのようにしたらよいかを、相手に説明することができる。 ①市内で見られるUDについて知る方法を伝え合う。 ②身近なUDを取り入れたものの工夫点について、自分の考えを伝える。				
4 本時	[Part 1・Part 2] ※単元全体の中間評価 ■誰もが暮らしやすい社会について考えるため、身近で便利だと感じるUDについて自分の意見を整理し、簡単な語句や文を用いて感想を述べ合ったり、それについて質問・応答したりできる。 ①UDを取り入れた身近なものとその工夫点について、写真やイラストを使って互いに伝え合ったり、質問に応答したりする。 ②やり取りの内容に関する教師からの質問に適切に応答したり、聞き返したりして、情報や考えなどを相手と共有する。		○		行動観察 Bookmarkシート

5	[Read and Think 1] ■自分の喜びの気持ちなどを伝えることができる。 ①UDの良い点について伝え合う。 ②〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の文の構造を理解する。				※1、2、3時と同様
6	[Read and Think 1] ■UDの意義について書かれた文章の要点を読み取ることができる。 ①教科書の登場人物が紹介しているUDを取り入れたものを1つ選んで、感想を述べ合う。 ②UDを取り入れた身近なものは、どのような場合やどのような人に役立つかについて、自分の考えを書き表す。				
7	[Read and Think 2] ■UDを生み出した人物の功績について書かれた文章の概要を捉えることができる。 ①UDが大切な理由について伝え合い、考えをまとめて書く。				
8	[Read and Think 2] ■誰もが暮らしやすい社会の実現のためにどのようなUDが必要か、自分の考えや提案を考えることができる。 ①学校や町の中でUDを取り入れたいものについて伝え合い、自分の考えをまとめて書く。				
9	[Unit Activity] ※パフォーマンステスト ■未来のUDについて、自分の意見やその理由を整理し、簡単な語句や文を用いて感想を述べ合ったり、それについて質問をしたり応答したりできる。 ①学校や町の中でUDを取り入れたいものについて、イラストを使って互いに伝え合ったり、質問に応答したりする。 ②やり取りの内容に関する教師からの質問に適切に応答したり、聞き返したりして情報や考えなどを相手と共有する。		◎	◎	行動観察 Bookmarkシート
10	単元テスト	◎	◎		

## 8 本時の計画

### (1) 目標

だれもが暮らしやすい社会について考えるため、身近で便利だと感じるUDについて自分の意見を整理し、簡単な語句や文を用いて感想を述べ合ったり、それについて質問・応答したりできる。

「話すこと〔やり取り〕」

### (2) 本時の指導に当たって

#### ① 「型」を始めとする段階的な学習過程

単元の新出表現等（例：Thanks to their shape, you can cut the paper easily.）を「型」として、自分の考え（例：Thanks to the bump, I can find the shampoo easily.）に置き換えさせる。これまでの単元の学習で身に付けた既習の「型」も使用するように働き掛け、繰り返し「型」を使用させる。また、導入時に既習事項をテーマとし、写真を用いたやり取りを行いながら、本時のやり取りで役に立ちそうな基本的な語彙を想起させる。

様々な級友と繰り返しやり取りを行う際に、相づちを意識させたり質問を取り入れさせたりと、一回ごとに活動のポイントを示し、継続・発展していくやり取りにつなげていく。また、手元でキーワードを確認しながら相手の顔を見て話す姿を、教師がモデルとして示し、生徒に気付かせる。最終的には、再び最初のペアでやり取りを行い、一回目よりもやり取りがつながり、自分の考えを広げられるようになったことを実感させ、自信を持たせる。

#### ② トリオ活動を取り入れた学習形態

やり取りをする際の学習形態に、トリオ活動を取り入れ、より自然な会話形式での発話の機会を増やし、協働の効果を高める。つなげる役の生徒には、会話の中で相づちや感想を述べるよう働き掛ける。モデル会話の際に、教師が話す順番や関連する質問をする流れ、場合によって役割にこだわり過ぎず自然なやり取りをする姿を具体的に強調して示し、生徒自ら気付くように導いていく。また、練習を繰り返して、ある程度自信がついたトリオは、教師の前でやり取りをする。その際、教師が各トリオの会話内容、英語使用レベルや学習意欲を踏まえた適切な質問を行い、思考を深める発話を促しながら即興的なやり取りにつなげ、自分の考えを深めさせていく。

③ 学びの成長を把握する学習支援

教師は、本時の前に全員のBookmarkシートの記録を確認して、個への指導・支援に役立てる。

生徒は、単元の全体計画におけるPart 1（身近なUD）とPart 2（Part 1のUDの工夫点）のテーマについて伝えたり、質問したりする。級友と協働で対話に取り組み、繰り返し話したり質問をしたりしながら、伝わりやすく継続性のあるやり取りを、広げ深めていく。

タブレット端末で、相づちや質問、感想に関する既習表現を共有して、生徒はそこから自由に使いたい表現を選べるようにしておく。本時では、相づちと感想に関する表現を特に意識させ、3人目の生徒が役割を果たしやすくなるように支援する。

授業の最後には、本時のやり取りの成果や課題をBookmarkシートに記録させ、振り返りをタブレット端末に入力・提出させる。自分ができていることや苦手なことを視覚的に把握させ、やり取りで自分の考えを広げ深めるための課題を自覚させる。

(3) 指導過程

段階	学習活動	形態	・指導上の留意点	評価
導入 10分	<p>○教師の主な発問、指示 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">研究主題との関連</span></p> <p>1 挨拶をする。</p> <p>2 復習として、既習事項をテーマに、写真やイラストを使ってやり取りをする。トリオで練習に取り組み、互いの役割を入れ替えながら行う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">手立て(1)(2)</span></p> <p>○First, let's do small talk as a review. Switch the roles and talk again.</p>	トリオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、オンライン授業支援アプリに蓄積させていた学習記録を活用させる。</li> <li>・既習のテーマを取り上げて、本時のやり取りで役に立ちそうな表現を想起させ、生徒が間違いを恐れず自信を持って表現できるようにする。</li> </ul>	
	<p>◆生徒同士のやり取りの例</p> <p>S1 : What ○○ are you interested in?</p> <p>S2 : Do you know this? (写真・イラストを見せる)</p> <p>S1,S3: Yes, I do. This is □□. Do you like it?</p> <p>S2 : Yes, I do.</p> <p>S1 : What is the good point?</p> <p>S2 : I like it be..... (because を忘れている)</p> <p>S3 : Because? (忘れている表現を伝えて会話をつなげる)</p> <p>S2 : Yes! I like it because...</p> <p>S1,S3: Sounds nice. (感想を伝えて会話をつなげる)</p> <p>S2 : Thank you. How about S1?</p> <p>S1 : Do you know this? (写真・イラストを見せる)</p> <p>.....</p>			
展開 30分	<p>3 本時の目標と流れ（身近なUDについてやり取りをする）に見通しを持ち、個人ごとに課題を設定する。</p> <p>○Today's target is <b>"to talk and ask each other about universal design in daily life"</b>.</p>	個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標と流れを基に、個人ごとに必要な課題を設定させる。</li> </ul>	



段階	学習活動 ○教師の主な発問、指示 <span style="border: 1px solid black;">研究主題との関連</span>	態	・指導上の留意点	評価
展開 30分	7 6の活動で、やり取りについて質問に応答したり聞き返したりして、対話を継続・発展できていたトリオが全体の前で発表をする。	全体	・全体発表については、T1、T2で相談し、発表させたいトリオを指名する。具体的にフィードバックして、全体で共有する。	
終末 10分	8 本時の振り返りを行う。 (1) 学習活動4の場面で最初に組んだペアで、本時の学びを生かしながらも一度やり取りを行う。Bookmarkシートにセルフチェックを記入し、ペアからサインをもらう。 (2) (1)のやり取りと展開4で最初に行ったやり取りを比較し、本時の振り返りをタブレット端末に入力する。教師のフィードバックを受けながら次時の活動への見通しを持つ。 <span style="border: 1px solid black;">手立て(3)</span> 9 挨拶をする。	ペア  個別	・最後にペアでやり取りさせ、本時の学びの成果を実感できるようにさせる。  ・生徒が自分の使用した英語について振り返り、目的・場面・状況に応じた適切な表現方法を確認できるように働き掛ける。	思判表 〈行動観察〉

(4) 本時の評価

観点	評価規準(B)	十分に満足できる(A)	努力を要する生徒(C)への手立て
思考・判断・表現	だれもが暮らしやすい社会について考えるために、身近で便利だと感じるUDについて、自分の意見を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続させている。	評価規準(B)に加えて、相手の質問に適切に応答したり、聞き返したりしながら、自ら対話の流れを作り、会話を継続・発展させている。	Bookmarkシートの進捗状況とモデル文の内容を一緒に確認しながら、UDを取り入れた身近なものについての意見を整理させる。意見がまとまった後、教師との練習を通してさせることで少しずつ自信を持たせる。やり取りの場面では、キーワードだけでなく、モデル文を参照しながら活動に取り組んでもよいことを伝え、本人に選択させる。

(5) 準備物

- ① 教師：教科書、タイマー、タブレット端末、モニター、Bookmarkシート（別紙）
- ② 生徒：教科書、ノート、ワークブック、ファイル、タブレット端末

(6) 板書計画

U5-2 Final Target 自分の発明した未来のUDを伝え合うことができる。  
Today's Target 友達に分かりやすい表現を使って、身近なUDについて伝えたり、質問したりする。

1 Small Talk  
2 Set target  
3 Practice  
4 Challenge  
5 Reflection

進め方  
3 Practice (①pair→②trio)  
↓準備ができたトリオから…  
4 Challenge  
(③talk with teachers)

Sunny  
Friday  
October 17<sup>th</sup>